
平成20年5回玖珠町議会定例会会議録(第4号)

平成20年12月10日(水)

1. 議事日程第4号

平成20年12月10日(水) 午前10時開議

第1 一般質問

1. 本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

出席議員(16名)

1 番	尾方 嗣 男	2 番	工藤 重 信
3 番	河野 博文	4 番	菅原 一
5 番	佐藤 左 俊	6 番	柳井田 英 徳
7 番	松本 義 臣	8 番	清藤 一 憲
9 番	江藤 徳 美	10番	宿利 俊 行
11番	秦 時 雄	12番	高田 修 治
13番	藤本 勝 美	14番	日限 久美男
15番	後藤 勲	16番	片山 博 雅

欠席議員(なし)

職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局 長 芝原 哲 夫

議事係 長 穴井 陸 明

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町 長	後 藤 威 彦	総 務 課 長 兼自治振興室長	松 山 照 夫
企 画 財 政 課 長	帆 足 博 充	税 務 課 長	帆 足 一 大
福 祉 保 健 課 長	日 隈 桂 子	住 民 課 長	河 島 広 太 郎
建 設 課 長 兼 公 園 整 備 室 長	梶 原 政 純	農 林 課 長 兼 農 業 委 員 会 事 務 局 長	麻 生 長 三 郎
商 工 観 光 課 長	坪 井 万 里	水 道 課 長	佐 藤 健 一
会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長	大 蔵 喜 久 男	人 権 同 和 啓 発 セ ン タ ー 所 長	吉 野 多 紀 江
学 校 教 育 課 長	宿 利 博 実	社 会 教 育 課 長 兼 中 央 公 民 館 長	小 川 敬 文
社 会 教 育 課 参 事	森 高 三	わ ら べ の 館 館 長	中 川 英 則
行 政 係 長	山 本 恵 一 郎		

午前10時00分開議

○議 長（片山博雅君） おはようございます。

本日の会議に遅刻の届出が提出されておりますので、報告いたします。

13番藤本勝美君所要のため、遅刻の届出が提出されております。

開会に先立ちまして、傍聴される皆さんにお願いします。

会議中は静粛に願います。

なお、会議中の言論に対し、拍手や可否表明言動は固く禁じられております。

なお、会議の傍聴規則第7条並びに第9条の規定により、写真撮影やカセットテープの使用、携帯電話の持込みは禁止されておりますので、ご協力願います。

ただ今の出席議員は15名であります。

会議の定足数に達しております。直ちに本会議を再開し、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

○議 長（片山博雅君） 最初の質問者は、3番河野博文君。

○3 番（河野博文君） おはようございます。議席番号3番河野博文です。

平成20年第5回定例会におきまして、質問の機会をいただきましたことを感謝申し上げます。

質問に関しましては、通告に従いまして、一問一答方式でまいりたいと思いますので、議長よろしくお願いたします。

さて、町長も当選後3ヶ月を過ぎ、日夜玖珠町町政発展のためにご尽力いただいておりますこと、感謝申し上げます。今日は、いろんな面から町長も落ち着かれたと思いますので、町長の政策、施策なりをお伺いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

まず最初に、先日、町長とはある町内での結婚式でお会いしましたが、町長は、その際、2年後には玖珠町も厳しい財政状況になるということをお話しされておりました。私も、決して、今大分県で内容によっては1番になってるところもあると思いますが、本当に厳しい状況が今後予想されるのではないかと考えております。

そこで、まず最初に1番としまして、今後厳しい行財政状況になることが予想されますが、玖珠町長として考えられている取り組み、政策、対策等がございましたら具体的にお聞かせいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（片山博雅君） 後藤町長。

○町長（後藤威彦君） 河野議員のご質問に答えさせていただきます。

行財政改革の取り組みについては、議員のもうご承知のとおり、平成17年に「行財政改革緊急4ヵ年計画」を作成をし、更に18年には、国の指示により5ヵ年計画として職員一丸となって行財政改革に取り組んでいる最中であります。

取り組みがなされたものとしては、この5ヵ年計画の目玉と申しますか、将来の玖珠町のまちづくりを左右するでありましょう各地区の特色ある活動というものも行っておるわけであります。特に地域コミュニティの創設があったわけであります。簡素で効率的な組織の構築を目指して、そういうコミュニティの創設をやったわけでありますが、55の審議会、委員会、それから27の審議会、委員会を再編成いたしまして、要は各委員会を数を再編をしたということであります。数を減らしたということであります。その他、若竹、くすのき保育園の民営化ということで、行政組織の改革を行ってきたところであります。

それから、ご存知のとおり、職員の150人体制を年度ごとに減らしながら適正化を行っているところであります。各課では38項目にわたる事務事業の見直しを協議、検討して取り組みを進めておるわけでありますが、年度ごとに新たに取組む必要があるものは、順次前倒しをしながら、項目について取り組みを実施しているところであります。

この行財政改革5ヵ年計画は、平成21年で終わりとなっておりますわけですが、現在、ご存知のとおり世界規模の金融経済不況の中で大変国も県も町も不透明な状況にあるわけであります。21年からも、21年に終了するわけでありますが、更に、22年から、新たな行財政改革をやらなければこれはならない。いわば21年までやったものをつなげていかなければならないと考えているところであります。

今後、行財政改革推進委員会の中で、今までの行財政改革を検証いたしまして、十分議論を重ね、更なる改革対策を協議してまいりたいと考えているところであります。

具体的な対策については、課長より答えさせます。

以上です。

○議長（片山博雅君） 松山総務課長。

○総務課長（松山照夫君） 今、町長の方から具体的な取り組みということでありましたけども、今、町長が申しましたように、この5ヵ年計画によって、計画が平成21年度、来年度まで続くわけであります。だからこれを、この検証なしにはですね、次のステップにはやっぱりどうしても進めませんので、この検証をまず第一にやるということ。現在、既にこの5ヵ年計画の中で削減目標額というものが掲げておりました。例えば19年度の削減目標額約2億1,400万という、例えばそういう目標額を定めておりましたが、19年度決算においては2億9,600万と、この額を上回った削減が、特に人件費、物件費等を中心にありますので、こうしたものがまた、次のステップではまた目玉になろうかなと思っております。

それから、職員数に限っていえば、今の玖珠町の人口推計からいえば、平成30年といえれば遠い将来のように聞こえますが、すぐ目の前にやってくることだろうと思いますし、そのときの人口が1万5,000人、だから、職員100人に1人という計算にすれば150名体制、こうしたものをいわゆるシミュレーションをして、これから具体的に、簡素な行政組織、そして地域住民を巻き込んだ今地域コミュニティをつくっておりますから、そうした住民の声が届くような行政システムにつくっていくというのがこれからの行財政改革の柱になろうかと考えております。

○議長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3番（河野博文君） 5ヵ年が21年度で大体終わりですかね、最初の計画ですね、したときに、今職員のこと言われましたけど、職員を減らしていくためには、やはりいろんな課の統廃合というか、そういうことを十分考えていかなければならないと思うんですけど、これは今言われましたように、平成30年ぐらいですか、の目標じゃちょっと遅いんじゃないかな、やはり今、国の方でも省庁の統合とかいろんなことをやって、産業関係でいいますと、農林とか国交関係とか一緒にするような話もございますし、町としても早い取り組みが必要じゃないかと思っておりますけど、課の統廃合とかにつきましては、町長どんなふうにご考えておられますか。

○議長（片山博雅君） 松山総務課長。

○総務課長（松山照夫君） 現在の段階ではそう具体的なことは申し上げられませんが、確かに職員の退職も団塊の世代の退職を迎えておまして、非常に人事上からいえば非常に困った面も出てきておりますが、簡素な行政運営とすれば課の統廃合、こうしたものも視野に入れていきたいと思っておりますし、またなお、その統廃合あるいは人員削減によって行政サービスが低下するようなことになると思いますので、そうしたことも天秤にかけるといいますか、両2つを照らし合わせて、これから簡素な行政組織こうしたものをつくっていきたくて考えております。

○議長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3番（河野博文君） 行財政改革する中でですね、どうしても、国でもそうですけど、公共投資とかそういう面で問題になっております。地方においては公共投資というのがやはりなければ、民間投資というのが殆どないような状態ですから、厳しい状況になると思うんですけど、公共投資をする際

に、福祉とか教育とかそういうようなバランスが難しいところがあると思うんですけど、その辺、町長も新しくなられて、いろんな面でこういうことをやってみたいとか、ああいうことをやってみたいとかいわれてると思うんですけど、特に取り組みたいことがございましたらお聞かせください。

○議長（片山博雅君） 後藤町長。

○町長（後藤威彦君） 自席の方からお答えさせていただきます。

質問の順序がちょっと違ったのかも知れませんが、教育環境、それから教育の向上として、どういうことを思われるかと、こういうことが主な趣旨というふうにご理解していいですかね。

○議長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3番（河野博文君） その教育のことに関しては後ほど質問させていただきますが、今は公共投資、福祉、教育のそういう面での行財政的なバランス的なことをどのように考えられるか、もう一般的にですね、今、政府なんかいわれてることは、世間的に、例えばですね、道路財源の一般化というか、昔は道路財源を全て道路に使っていたけど、それを一般財源化するとかいうようなことを世の中ではいわれてます。それに向かって今、政府も向かってるような状態ですけど、そうしたときには、やはり地方においてはそういう面で厳しい、先ほど申しましたように、公共事業等が少なくなれば、地方は民間が活性化するようなことは殆どないと思うんですよ。その辺で、町としてどのように考えられるか、やはり農林業、工業、商工業に対しても積極的な施策を考えられるのかどうか、町長としての意見をお聞きしたいと思っております。

○議長（片山博雅君） 後藤町長。

○町長（後藤威彦君） また自席で答えさせていただきます。

問題は財源の問題に絡んでくると思っております。要は人件費を少しでも抑える、そうすることが勿論いろんな事業の展開には使えるということになるろうと思えます。

それから、これからは、国、県からの補助金をいただいてやってるわけですが、それらについて、いろいろな各課で積極的な取り組みをしていただいて、そういうものを導入を図っていききたいと思っております。

それから、要は大型事業というか、そういう事業については極力、もうどうしてもやらなければならない事業以外は、当分の間やっぱり抑えていく、そうすることで、いわば福祉、教育にお金を回すということを考えていきたい。方向的にはそういう方向に向かいたいと思っております。

○議長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3番（河野博文君） 職員の方のですね、人件費を今いらっしゃる方の下げるとかいうことは、それは難しいことと思えますけど、やはり人員をどのようにしていくか、合理的な仕事をしていく、そういうことを前向きにですね、考えられていく必要はあるんじゃないかなと思っております。

そのためには、先ほど申しましたように、いろんな課での統合とか、それとか廃止すべきところがあるかも知れませんが、そういうのをやはり真剣に考えられてですね、やはりいくべきじゃないかなと思っております。

それでは、2番目の質問に入ります。

他市町村に比べまして、玖珠町の対応が遅いところがあると思いますが、町長のお考えをお聞きしたいんですけど、例えば幾つか例があります。その1つでございますが、先日パスポートの、今、大分県が取り扱ってる分を各市町村に移譲するというか、そのパスポートの発行を移譲するとかいうことがございましたが、九重町の方はその対応ができて来年度からやるということですけど、玖珠町の方はどうなっていますか。

○議長（片山博雅君） 松山総務課長。

○総務課長（松山照夫君） 私の方からお答えさせていただきます。

このパスポート申請については、平成17年度から県と市町村とでその権限移譲の協議を行うということで、ワーキンググループの会議を開催して、年度ごとに県の事情と各市町村の事情、これが順次整ったところからやってるわけでありまして、21項目にわたる権限移譲の項目がございます。その中の1つがこのパスポートの申請であります。

これは、この県のお家事情で各市町村へということで権限移譲がなされてることでありますけれども、人員配置の問題とか、交付金、事務に対する交付金の問題、こうしたものが整ったところから行っておるわけでありまして、この協議を早急に私どもも詰めていきたいと思っております。その結果、残された町村になったということでありまして、スムーズな協議をしていきたいと思っております。

また、これは蛇足になりますが、20年の4月からは、このほか地方自治法の関係とか、鳥獣保護法の関係も、12項目、もう既に県の方から受けておりますから、早く調整が整った項目、あるいは遅くなったパスポートみたいに遅くなった項目があるということでありまして、全てが玖珠町が遅いというわけではございませんので、ご理解をお願いしたいと思います。

○議長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3番（河野博文君） 全てが遅いわけじゃないかもしれませんが、このパスポートの申請に関してですね、この前県の方に聞きましたところ、やはり県もやはり合理化とかいうか、なるべく地方にいらっしゃる職員を減らして、集めていくとかいうか、そのためにはいろんな場所でも人員削減をしなければなりません。今、玖珠は振興局の中にそれがあありますけど、これは振興局の中のをなくして、もう町村でできるようにしたいということを県は言っておられます。

そういうことに対してですね、やはり町長いつも九重町と比較されますけど、何で玖珠と九重この対応が違うのか、この辺、町長どんなふうにお考えなんですか。一緒に向こうからいつてきたことをね、一緒になんてできないか、大分県でもできてないのは、大分市と玖珠町が主だそうです。ほかの市町村はできてるそうなんですけど、なんでそういうところが玖珠町が遅いのか、その原因について思うところございましたら発表してください。

○議長（片山博雅君） 後藤町長。

○町長（後藤威彦君） これは振興局が、パスポートの問題は、あそこの人員を、私も着任してから県に行ったときに、県の方から話もありました。勿論準備をしますと、廃止が、もうすぐに廃止をし

てしまう、振興局で廃止してしまえば、それはもう町民が非常に不便になるわけですから、それはもうすぐに取り組みにやいかんなどそういうふうに思っておりますが、これはまだすぐじゃないなど、まあ準備が、こちらの体制がぴしっととれてからやればいいなというぐらいに私判断しておりましたが、県下の状況を見ますと、もう大変遅れてる状況ですから、その点についてはもう早く準備をするということで指示はしておりますので、早急にできると私は思っております。

○議長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3番（河野博文君） 今、私お聞きしたいのは、どういうところにこういう面で遅くなる原因があるか、それをちょっとお聞きしたいんですけど。

○議長（片山博雅君） 後藤町長。

○町長（後藤威彦君） そうですね、その原因というのは、私まだ3ヶ月で、なってからですね、一応指示して、それまでのいきさつがどういうふうだというのは一応話は聞いております。ただ、状況としては、振興局がまだ廃止にならないから、ああそんならまだいいなというような判断をしていったわけで、そのパスポートの件については、まあ県がある間はいいなというような判断を私はしたわけでありまして。だからすごく職員に急げということと言わなかったということでありまして。

○議長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3番（河野博文君） それではですね、もう1つ、電子入札システムがあるんです、大分県にはですね。この入札システムは、今までは各町村に行って、直接紙に書いて入札するという、公共工事ですね、やり方してるんですけど、これに関しては18市町村、全部大分県でそのシステムに入っております。玖珠町もその負担金というか、お金は納めてると思うんですよ。もうこれ2年ぐらい納めてると思うんですけど、もうちょっと前から納めてますかね、九重町の方ではもう1年半前からそれを導入して、玖珠町は未だに導入してない。この件につきまして、前々回の議会のときですかね、質問して、前向きに取り組むということでございましたが、こういうことに対してもですね、取り組みが遅い。大分県下18市町村の中で玖珠町だけです、してないのは。何でこれもしないのか、お金だけ納めていて勿体ないなとか思わないのかと思うんですけど、町長どんなふうにお考えでありますか。

○議長（片山博雅君） 松山総務課長。

○総務課長（松山照夫君） ちょっと現状をご報告いたしますが、今年度ですね、20年度残すところ僅かでありまして、この工事契約管理システムというのがありますが、それを導入して電子入札に対応できる環境整備が現在整いました。で、この残す1月から試行いたしまして、来年度から正式に稼働を行いたいと考えてるところであります。若干県下で最後ということになりまして、時間がかかりましたけども、来年度から正式稼働ということで考えております。

また、業者の方もほぼ玖珠町の業者もこの電子入札の利用者登録者数というのも建設工事では90約2%、92%ほどになっていますから、十分電子入札がされるなというふうに考えております。

○議長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3番（河野博文君） 1月からされるということでございますが、こういうことも含めてですね、

町長、対応がすごく遅いんですよ。これに対して、町長はもう3ヶ月過ぎましたし、住民課等では窓口に対して対応の仕方を頑張ってくれとか言われてるとお話聞いております。で、その辺含めて、町長はこういう今の現状をどんなふうに変えていかれようとするのか、意見を聞きたいと思うし、この原因がどこにあるのか、そういうことを考えられませんか。

○議 長（片山博雅君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） 大変、今、状況をそういう面も含めて、職員の状況を私は把握をしてきているつもりであります。大変皆さん方職員は、仕事に大変もう追われてる状況が今の現実としてあると思っております。

そういう中で、この事業はもうやらなくていいんじゃないとか、これはやるべきだとか、そういう取捨選択を今、私自身もさせてもらっておりますので、きっと4月以降からは形として非常に職員も前向きな形が出てくるだろうと、私はそういうふうに期待しております。

○議 長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3 番（河野博文君） 私は思うのですね、やはり仕事のにはどこの役所、役場に行っても仕事量というのはそれなりに変わってないと思うんですよ。玖珠町だけが特別多いとかそういうことはないと思います。ただ、玖珠町はですね、まあ職員の方を前にして言うのも何なんですけど、職員の方がいろんな意見を出される、前向きに考えられて実行される、そういうような体質ができてないんじゃないかな。いろんなまちづくりに関してもですね、僕は前の議会でも話したことがあるんですけど、若い人たちに、職員の若い人たち含めていろんな発想が出てくると思うんですよ。我々もう50代になってからは、なかなか活発な発想というか、変わった発想というか、そういうのを出せといてもなかなか出ないんですけど、若い人には突拍子もつかないようなことがあると思うんですよ。しかし、今までは、そういうことを出されてもなかなか上の人に相談がいかないというか、相談ができない。やはり役場の中でそういう新しいことを何かやって、玖珠町を引っ張っていく、そういうような気持ちがまだまだ少ないんじゃないかと思っております。

それで、私は、やはりせっかく今優秀な職員さんがいっぱいいらっしゃいます。役場の中で是非玖珠町を引っ張っていただくようなですね、体制づくりをつくってもらいたと思いますが、町長のお考えをお聞かせください。

○議 長（片山博雅君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） もう河野議員のもうおっしゃるとおりであります。大変今から、私はもうご存知のとおり、入り口の開けた状態で、いつでも話しに来れる態勢づくりをしようと、それから極力職員の能力を引っ張り出そうということで、来たときに必ず「あなたの考えは」ということの中で、各いわば課長だけでなく係長も、それからまた一般の職員も、そういう問いかけをしながら、職員の改革というのはやっていかなければいけない。これはもう早急に取り組むべきだと思っております。今までの上意下達的な考え方ではなくて、それぞれの人が同じ目線で同じものを言える体制をつくりた

いそういうふうに思っております。

だから、常に私もそういう目線の中で物事を考えよう、一緒になって考えよう、一緒になってこの玖珠町を変えていこうとそういう思いで今取り組んでおりますので、もう少し時間をいただきたいという思いであります。よろしく願いいたします。

○議 長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3 番（河野博文君） 是非ですね、前向きに活発な玖珠町役場をつくっていただくように改革をしていただきたいな思っております。

その中で、これはあれですけど、今1つだけ、町民の方がですね、町長が公用車に乗らないということで公用車に乗ってないんですけど、今の公用車をどうされるのか、また、ずっと公用車なしでいくのか。やはり私としては、町長いろんなこと、あちこち遠いところも行くことが多いと思うんですけど、やはり身体には気をつけてもらわなならんし、ゆとりを持って行動してもらいたいんですけど、その辺、今の、前の黒い町長車ですか、あれに乗らないということですが、それに乗らないならそれはどういうふうにするか、そのままほっといても経費かかるだけと思うんですけど、町長の考えをお聞かせください。

○議 長（片山博雅君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） 町長専用車というんですかね、それはもう必要ないと私は考えております。

そして、今の公用車の黒塗りの車ですが、これは3月までは一応借りてるという形でありますから、それは当然返していきます。

ただ、今後については、確かに企業誘致とかそういういわばビップな方がみえたときの対応というのは、もう少し私時間をいただきたいと思います。他市町村がどういうふうにしておるのか、どういう形がいいのか、とにかく使用車、町長使用車というのは私は必要ないと思っております。だから動くときには必ず、職員が3人で行くならもうそれと一緒に、私の車なり、その一緒に私用車でなくて、普通の車で動きたいというふうに思っております。これは通させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議 長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3 番（河野博文君） 私もその気持ちは嬉しいんですけど、やはり町長が移動されるときに事故やらあったら困るし、ゆとりを持ってされるべきじゃないかなと思っております。それは皆さん一緒に行くときに町長だけ別に行くとかそういうことでなくてもいいと思うんですけど、やはり1人で行かれることが多いと思うので、その辺は考えられてした方がいいんじゃないかなと思っております。

それからですね、これはちょっと企画財政の方なんですけど、昨年からインターネットの高速化ということでADSL、特に北山田地区に対しましては早急な対応ができて、今年もう早速できていることに対してですね、本当によかったんじゃないかなと思っております。やはり今はインターネットの時代です。で、高速化をしないとどうしても対応できないところがあるので、是非これに関しましてですね、まだ不整備であります古後地区とか日出生地区の方に対してもですね、4局、5局のNT

Tと思うんですけど、そこに対してADSLの早期の導入をですね、やはり考えていただきたいと思
いますけど、その辺の早い取り組みについて、企画財政課長お願いいたします。

○議 長（片山博雅君） 帆足企画財政課長。

○企画財政課長（帆足博充君） ただ今のご質問にお答えします。

北山田地区が当初は今月中にADSLの開設の説明会を開いたうえで、利用について周知を図る予
定をしておりました。それに引き続いて古後地区、日出生地区、3ヵ年事業等で採択をしております
ので、計画的に実施をしてみたいと思っております。

○議 長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3 番（河野博文君） ありがとうございます。

それでは、次の質問に入りたいと思います。

3番目のですね、玖珠町の貴重な子どもの教育環境整備、教育向上に向けて町長として考えられて
いる、取り組んでいかれることがございましたら、具体的にお聞かせしていただきたいと思いま
す。

教育委員会に関しては、今、教育長不在でございますが、教育委員の選任にあたりましては、町長
の任命ということでございますので、やはり町長の意向というのがかなり反映してくるんじゃないか
と思いますけど、それについて町長の取り組み等ございましたら、具体的にお話ししていただきた
いと思えます。

○議 長（片山博雅君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） 基本的に教育に対しては全面的な力を注いでいきたいと、これは思いは皆さ
ん方と一緒に思います。やっぱり玖珠町の子どもは宝ですから、教育に対してはできる限りの支援を
していきたいなとそういうふうには思っているところですが、具体的なこととしましては、もう歴代の町
長さんたちがいろいろなこの童話の里のことを1つの柱にしながら、子どもの教育づくりとい
うものやってきたんだらうと思っております。「自然と子どもの王国くす」、それから「童話とテー
ブルマウンテンの里」としての構想というのがずっと脈々と代々町長さんの中でつながってきたんだら
うと思っております。私もそれは踏襲をしていくべきだと思っております。

基本的な方向としましては、今までそう言われてきたことをやっぱり具現化しなきゃいけない。実
際に町民の皆さん方に見える形でしていくべきだろうと、また、そうしなければいけないという思
いがあります。

一つひとつを考えてみますと、一番目には、本とのふれあいを大切にするということをお願いと
考えております。このことは、童話の里玖珠として、子どもから大人まで共通するテーマとして取り
組みたいわけですが、その最終目標としては、将来的に本格的な図書館を考えていきたいなとそうい
うふうには思っておりますが、まずできる取り組みとしては、子どもの成長の過程に本を読む、親しむ、
そういう環境づくりが大切だろうと。その中で、小学校や中学校の図書館を充実していきたいなと、
少しでも充実していきたいなと思っております。これについては、いろいろな本の蔵書の問題がある
わけですが、いろんな予算的な問題も含めてあるわけですが、それについては、できる限り知恵を出

しながら進めていきたいなと思っております。

二番目は、わかくさの広場であります。これも支援を考えていきたい。これはもう私の基本的な姿勢でもあります、いわば高齢者、それから身障者、それから子どもたち、いわば弱者といわれる方たちに常に視線をそこに置いてということの一つとして考えているわけですが、その事業についてはできるだけ支援をしていきたいと思っております。ただ、今少し問題になってるのは、後継者がなかなかいないとかそういう問題もありますが、そういうことも積極的に私はお願いをしながら、ボランティアの皆さん方に大変迷惑をかけておるわけですが、これはある意味では、場所の問題とか交通の問題とかいろんな問題があるわけですから、そういうことを少し町の中心の方に移せたらいいなとそういう思いもありますが、要はそういうことを全体的に含めてどうすればいいか、どういうふうに支援ができるのか、財政的なことだけじゃなくて、いわば人的なもの、それから物的なものいろんなものがあると思いますが、とにかくそういうものについては積極的な支援、環境整備を含めてやっていきたいなと思っております。それが二番目です。

三番目には、これは私のある程度皆さん方に公約的なことも言ったと思いますが、児童館やミニ公園であります。これは、児童館につきましては、平日公民館を使われてないところに、いわばボランティアの皆さん方やその老人会の皆さん方の要請をしまして、そこに子どもさんを集めて遊んでいただく、いろんな勉強をみてもらう、そういうような形が、各地につくっていききたいな、そういう組織体を作っていきたいなと思っております。

それから、一番今の教育で、これは専門家の人たくさんおられますが、どうしても小学校に上がるまでの子どもさんについては、やっぱりしつけとそれからよく聞くということがなかなかできていないといわれております。そういうことをすることが、玖珠の将来的に、小学校3年生ぐらいまでのときに、それがもうその前にできておれば、大変教育効果というものは上がるようであります。残念ながら、今の小学校の段階でそういうしつけをすることに一生懸命になって、なかなか知識をいろんな教えていくというか、そういうものがなかなか難しい状況もあるようですから、これは全町的にいわば学校・家庭・社会の子どもさんたちにいわばしつけ教育というか、そういうことをやっていきたいなと、その一つとしては、あいさつ運動もそうでしょうが、要はそういうことを支援を、支援というか考えていきたいなと思っております。

それから、まあ以上が私の思いであります。

○議長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3番（河野博文君） ありがとうございます。本当にすばらしい構想じゃないかと思っております。やはり今言われました、子どもたちに本とのふれあいというか、こういうことはですね、非常にいいんじゃないかな、自分はあまり本は読んでなかったですけど、やはり本を読んだ人には勝てないというか、いろんな面で教育が発展発達するというか、じゃないかなと思っております。

昨年でも調べてみたんですけど、大分県の、これは学力に関してですけど、学力の分野で豊後高田市がよかったんですけど、そこもやはり教育委員会の取り組みの中に、本に親しませるというか、と

ということがございました。このことに関しては本当にいいことじゃないかなと思っております。

また、児童公園、児童館を造りたいというようなことでもございます。是非やってもらいたいと思いますが、その中で、1つ、今メルサンホールの中にある図書室があるんですけど、今ここが殆ど使われてない状態です。去年も議会でちょっと言ったんですけど、森高生の高校生あたりが、勉強したいときに使いたい、しかし、あそこに行ったら、土日は閉まってるんですかね、しょうがないから九重の方まで行って勉強することがあるということ話を聞いたことがあります。で、やはりせっかくそういうところがあるのに、今、殆どあそこを利用されてる方ないと思うんですよ。で、町長はとにかく早い取り組みをされるということなんで、是非そういうところもですね、せっかくある施設を活かしてもらいたいなというふうに思っております。

また、これは後ほどの佐藤議員の質問にも入りますが、玖珠町にも本当に図書館の一つぐらいあってもいいんじゃないかと思えます。私は以前から豊後森機関庫の敷地内、駅裏、特に駅の近くにですね、あそこはものすごくいい環境というか、勉強に適してるんじゃないかな、また、高校生あたりが汽車通で待ち時間なんかもあるんで、そういうところを利用して勉強してもらおうとか、本当に勉強してもらおうと思ったら環境のいい設備、施設、そういうところを考えて、どこやらここやらに造れという、いいもんじゃないと思うんですね。だからせっかくお金かけてするんなら、皆が利用しやすい、してもらえるようなものを考えて行って、児童館、児童公園等を造っていただきたいなというふうに思っております。

それからですね、昨日の大分県議会でもありましたが、全国学力テストの結果の公表というのを、県の方は各市町村の教育委員会に公表を指導していくということでございますが、玖珠町として町長はどのように考えられていますか。

○議 長（片山博雅君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） 日田市は公表ということで、大変ちょっと疑義がいろいろあっておるようがあります。もう少し他市町村の状況もみたいと思いますが、これはどこまでをどうするかというのがまだ全く私検討しておりません。どういう、個人的にするのか、それから学校でするのかというようなことも含めてちょっと検討させてもらいたいと思っております。

せっかく、本当はそれだけのことをしたわけですから、ある程度その教育に生かすべきだろうと思っておりますが、ちょっと難しい問題があるようでもありますので、少し検討させていただきます。

○議 長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3 番（河野博文君） 難しい問題もあるかも知れませんが、やはり今、玖珠町が学力においてはですね、かなり下回っております。やはり大分県も全国的に見ても下回ってる。そういうことで、県の教育委員会としても、そういうことに、公表することによってですね、いろんな施策とか、そのままではいけない、どうかしなければいけないということで、その一つの手段として、公表してもいいんじゃないかなということで県は公表する、したい。各市町村の方にそれをお願いしたいということで昨日の議会で出たと思うんですよ。

今、町長さん言われましたが、私は他市町村の動向を見てとかいうんじゃないくて、玖珠町はどうするんか、そういうところをですね、はっきりしてもらいたい。他市町村がしたからする、しないからしない、そういうのでなくて、玖珠町としてはどういうふうにやっていくべきか、そういうところをですね、やはり町長として一つの考えを持っていくべきじゃないかと思っておりますが、もう1回町長お聞きしたいんですけど。

○議長（片山博雅君） 後藤町長。

○町長（後藤威彦君） まあ他市町村というのはですね、いろいろな、どういう問題がこれに出すことによって派生するか、そういうこと等をみたいと思ったわけでありまして、全部が出したからうちも出しましょうという意味じゃなくて、いろいろこれは問題に、個人情報の問題とかいろんな問題で、そういうものがどういうふうになるのかというのを押さえてからというふうに考えたいと思います。

○議長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3番（河野博文君） 慎重にやるのはいいんですけど、時々はですね、冒険するぐらいのことはあってもいいんじゃないかなと思っております。その結果に関しては、それは首長である町長が責任はありますけど、やる以上は責任もって行動するというか、そのぐらいの気持ちでやってもらいたいなと思っております。

それからですね、教育環境整備とかいうと、いろんな施設とかそういうことを考えられますが、今やはり小学校、中学校でもそうですけど、いろんなところでいろんな事件が起こっております。玖珠町においてもどういうことが起きるか予測がつきません。そういうことがですね、起きないように、起きないより先にするのがいいんじゃないか、あってからするんじゃないくて、起きないためにどういうふうにすればいいか。例えばいじめとかが発生してはいけませんけど、もしもそういういじめ問題等が発生した場合、どのように対応していくのか。昨日は、地震の際の要支援者に対するの対策について、いろんなマップを作るとかされてましたけど、このいじめ等問題が発生したときに、どのようにして対応するか。当の本人たちは、なかなかそれを出すことによって今度反対にまたやられるんじゃないかなとか、そういうようなこともあると思うんですね。だからそういうようなことが起きないために、そういうような問題に対して、起こさないために何か取り組まれるとか、マニュアルを作るとかしていくとか、そういうようなことの考えについて何かございましたらお願いいたします。

○議長（片山博雅君） 宿利学校教育課長。

○学校教育課長（宿利博実君） いじめにつきまして、未然にそのいじめを防ぐということでもありますけども、やはり基本的には一人ひとりの人権についての教育が必要だと思っております。もしいじめが発生した場合に、やはり学級全体として、また、学校全体としての取り組みを行う。そして家庭と学校が一緒になってそのいじめのもとをやはり探って、その解決に向けて進めていくことだと考えております。

○議長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3番（河野博文君） ちょっと急に言われたので町長も答えにくかったと思うんですけど、こうい

ような問題がですね、是非起こらないように、今、教育長代理の課長いらっしゃるんですが、是非早め早めにですね、こちらからやっていくとか、仕掛けていくというか、そういうようなことをやっていってほしいなと思っております。

それから、これも教育委員会の方の関係になるんですけど、私も前の議会のときにこれも言ったんですけど、玖珠町として教育委員会、昨日も工藤議員さんが言われましたが、ホームページの中が乏しいというか、そういうようなことを言われていましたが、教育委員会につながるところがね、ないと思うんですよ。で、教育委員会の方針とかいろいろな面をですね、教育委員会はどんなことをやっていくんだ、玖珠町はどういうことをやっていくんだと、そういうようなことをですね、やはり前向きに出していった方がいいと思うんですけど、そういうことに関して町長はどう考えられますか。

○議 長（片山博雅君） 後藤町長。

○町 長（後藤威彦君） 大変貴重な意見ですので、検討させていきたい、そういう前向きに考えていきたいということでもよろしくお願いします。

○議 長（片山博雅君） 3番河野博文君。

○3 番（河野博文君） 是非前向きにですね、迅速な対応をしていただきたいなと思っております。

質問に関しては以上でございます。

それから、先ほどわかかきさの広場のことがございましたが、これに関しても、今ボランティアの先生方が子どもさんの送り迎えなんかも自費でされてるとかいうようなこともございます。是非町としてもですね、できるだけ支援はしていただきたいな。今、本当に思いもかけないような子どもさんというのが増えております。対応の仕方本当に難しいところがあると思うんですけど、是非そういうところにもですね、町長さんが力を入れてくれるということなので安心しておりますので、是非よろしくお願いしたいと思います。

今年も残り少なくなりましたが、町長におかれましては、また執行部の皆さん方、ご健康に留意されてですね、来年度、また今からぼちぼち予算編成に入ると思うんですけど、是非玖珠町の前向きな態勢というか、そういうようなことが見えるような平成21年度に向けて努力していただきたいと思っております。

今日はいろんなことを申しまして、唐突な質問もございましたが、この辺で質問を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議 長（片山博雅君） 3番河野博文議員の質問を終わります。

次の質問者は、5番佐藤左俊君。

○5 番（佐藤左俊君） 5番佐藤左俊であります。大変お疲れさんでございますが、私の一般質問につきましてご協力をよろしくお願いを申し上げたいと思います。

河野議員さんから行革の問題やら細かい点につきましていろいろとご質問がありまして、私は変わった視点の中でご質問をさせていただきたいと思っております。

とにかく、今、世の中大変な事件やら、経済的にも、また、昨日ですか、大リストラがあると、も

う大変、町長は常々アメリカの問題からいろんなお話をされますけれども、もう悪い話ばかりがあります。そうしますと、どうも暗くなりまして、今議会においてもあまりいい楽しい話はなくて、厳しい話やら苦しい話が次々とあるようになりますが、私は、我々議員は何のために町議会に出てるのか常々いつも考えておる。そういう視点に立って、また役場生活もやってまいりましたから、特に役所の中で自分ができなかった、また、こうあったらいいなということも常々考えた部分を、議員になりまして一般の人たちと色々な話し合いの中で自分なり勉強しておりますし、また、役場のいろんな様々な問題点もそのときにもお話しを申し上げております。そういう意味で多少ですね、ちょっと外れる部分もあろうかと思えますけれども、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

そういう意味で、今回の質問はですね、とにかく町が元気になる、どうしたら元気になるだろうかと、私の公約にもありました。そういう立場に立ってですね、ひとつ積極的な議論を展開させていただきたいなというふうに思っております。

それでは、いったい何が玖珠町にあるのかということで、自分なり考えたことがありまして、長い間、教育委員会に私係わっておりましたから、いろんな文化財関係をそれなり自分なりに係わった一人として、非常に玖珠町にはですね、大分県下、日本全国の中でも珍しいといわれるぐらい貴重な文化財がたくさんあるわけでありまして。恐らく、今教育委員会の課長等はすでにご存知と思いますが、他の課長さんはですね、大変失礼と思えますけれども、この文化財と聞いただけでですね、何か嫌になって、その話はちょっとというふうに、遠慮してくるのが実情ではないかと思えます。特に私が経験上申し上げますと、埋蔵文化財というのが、もう玖珠町はどこを掘っても、どこを掘ってもといますか、ちょっとした丘は殆どが遺跡群でございまして、珍しいんですよ。そういう中でいろんな工事、いろんなことで、そういうものが出たら嫌だな、仕事ができない。特に圃場整備を私関係したときに思ったんですけど、早く発掘調査してもらわんともう工事にならんとか、田が植えられんとか、非常に苦しい思いをした経験もあります。それだけですね、昔から歴史のあるこの玖珠町であります。

そういう中で、例えば国の天然記念物といいますと、大岩扇山ですね、それからもう1つ、国史跡と今度なりました角牟礼城、これは穴太積で全国的にも珍しいということで、国のいわゆるクラスが2つあります。それから三島公園内に行かれるとわかると思えますけれども、今回久留島庭園、これ非常に、今度、京都の方からの方がみえられて手入れをされたようございまして、これもまた珍しいと、全国的にも珍しいというふうに価値があるわけでありまして。それから栖鳳楼、これも非常に価値のあるものだということで、また修理もいたしました。それから清水御門の前庭、それから古墳といたしまして、鬼ヶ城古墳と鬼塚古墳というのが、それぞれ森と小田にあります。それから町指定文化財といたしまして、山王の薬師如来像と毘沙門天像、それから八幡には十二神将という仏像があります。それから石像仏もですね、宝篋印塔をはじめかなり玖珠町にはいろんな石像仏もございまして。それから、亀都起神社にはですね、前方後円墳の跡がしっかりと残っておりまして、とにかく県内では一番あると、いっぱいですね、いろんな文化財があります。

特に教育委員会の人たちはいつもですね、もう特に担当者、その文化財を守っていただける管理者

の方々、財政再建のあおりから殆ど管理費をあげられない実状になっておりまして、特に楽とかそういう民俗的な部分についても、それだけでなくかなり厳しい状況の中に、楽についても、県の文化財として山下とかそういう楽がございます。これについても資金的な支援というのは殆どされてないというのが現状でございます。

特に皆さん方もご存知かと思えますけども、観光、町長は特に観光を非常に目玉に上げておられましたけども、玖珠町にはものすごくそういった意味では、非常に珍しい、九重町は吊り橋で大変な問題でありますけども、ああいうものは造られた部分であります、昔からですね、いろんな文化財が玖珠町にはあります。このことをひとつ主眼に置いてですね、こういう遺跡の町としての、町として売り出す方法を考えてみたらどうだろうかというふうに思います。

特に旧森町には城下町もありますし、非常に、来た先生方、学者の先生も言われますが、「大変すばらしい町ですね」と。しかし、これをお金にしきらないのも我々、先ほど河野議員さんも言われておりましたが、どうも下手くそといいますか、この辺のところをもっと考えたらどうだろうかというふうに思います。

また、農林課を中心といたしまして、グリーンツーリズムで農業体験と修学旅行生をかなりの生徒を玖珠町は受け入れて、そういう意味では、農業関係についても多くの生徒たちも受け入れた経験がございます。また、今回の国体においても、多くの選手・監督を受け入れまして、大変な好評をいただいております。そういう意味ではもうその下地はですね、もう出来上がってるんじゃないかというふうに自分なり考えております。

そういうことで、県外からの旅人と滞在客の誘致という視点で一般質問に入らせていただきたいと思いますが、まず、全国のどこの自治体も、何とかして活性化をやろうということで頑張っていると思いますけれども、なかなか成功例はないと思います。全国的なですね、いろんな成功したところをちょっと調査してみますと、特に大分県の中であるのが、最近では豊後高田市ですが、昭和の町づくりということで頑張っております。日田の豆田地区もやっぱり最近ですね、非常にいろんな意味で頑張っているんじゃないかと思っております。

今回、私は4点にわたりましてご提案をいたしたいと思いますが、1点から3点目につきましては、文化財を生かした観光客の誘致ということでいきたいと思っております。先ほど述べましたが、大量な貴重な文化財が数多く玖珠町にはありますが、代表的なものとして、先ほど言いました国の関係、それから今度しました角牟礼、これはもともとと売り出しても絶対私は、大分県の中で2番目の国の史跡であります。竹田の岡城に次いで2番目ですが、事実上やっぱりこの中世の山城からそういったのが残ってるというのはこれは非常に珍しいことですし、こういった文化財ですね、中心とした部分で是非いったらどうだろうか。くどいようでございますが、こうしたまちづくりも、必ず多くの皆さんが訪れてくれるだろうと。売り出す知恵はいっぱいあります。

そこでですね、これも初めて私がこういうことを言うのはおかしいかと思えますが、今現在、日本各地の鉄道の中に、ローカル線になると思いますが、SLが蒸気機関車ですが、走っているところが

何箇所かあると思います。九州でも何箇所かありまして、非常に鉄道ファンを含めて、結構楽しいというか、本当に蒸気機関車、これは是非ですね、もう町長骨折っていただいて、特に大分から久留米まで通っております久大線、これをひとつ1日1便でいいですが、何かその運動をですね、是非町長にお願いしたいというふうに思っております。間違いなくですね、私は多くの皆さんが訪れて、しかも森には城下町がある、そういうことで鬼に金棒じゃないかというふうに思っております。幸い、久大本線にはですね、温泉地がたくさんあります。特に、大分県は日田市、九重町、由布市湯布院町、別府市の観光地がありますし、多くの観光客を呼ぶことができるんじゃないかというふうに思っております。いかがでしょうか。その中心に我が町ですね、豊後森機関庫が最も重要な位置を占めるんじゃないかというふうに思っております。

今度、私は議会の研修の中で埼玉県の鉄道博物館に行ってみりました。あそこ、何か設立した当初は年間1,000万人ぐらいのお客さんがみえたようでありまして、たまたま我々が研修に行ったときは平日でありましたけども、結構お客さんがみえておりました。ただ、近代的な建物の中に鉄道といえますか機関車がありました。あそこでくるっと回す、停車といいますか、くるっと回るやつで機関車を回したりして、それを皆さん見よったんですけど、やっぱり新しい建物の中にあれがあっても、確かに鉄道ファンにとってもいいんでしょうけど、今の豊後森機関庫ですね、あれは、あの形が生かすことで周りの設備を整備したら、もっともっと多くの皆さんがみえてくれるんじゃないかなというふうに思っています。

そう簡単には実現できないと思いますけども、町が活気づくためには町長に旗振り役になっていただいてですね、大分市、由布市、九重町、日田市の首長さんに是非働きかけをお願いをいたしまして、お客さんの誘致に尽力いただきたいと思っておりますし、そういう意味で、この鉄道をですね、是非久大線に走って、その中心に豊後森機関庫が生きればというふうに思っております。町長のご所見をいただきたいと思っております。

○議長（片山博雅君） 坪井商工観光課長。

○商工観光課長（坪井万里君） 町長にご所見をとということでございますけれども、一応私の方から若干お答えをさせていただきます。

通告でございます、久大本線に蒸気機関車の導入は考えられないか。関係をいたします大分市、由布市、九重町、日田市等に促進協議会の設置の働きかけをとということでございます。

佐藤議員の、文化財それから観光にわたります深い造詣を感じておるところでございます。この蒸気機関車でございますが、九州、山口範囲で考えますと、山口線で、現在、新山口から津和野でございまして運行しております。それと身近では阿蘇ボーイ、豊肥本線でございまして阿蘇ボーイというのがございまして、現在どういう、この阿蘇ボーイがどうなってるかと申しますと、この阿蘇ボーイが走ってました蒸気機関車8620型機関車、通称86と言われておるようですけども、この大正11年に誕生いたしました、年からしますと86歳になるわけでございます。昭和50年に一度引退をいたしまして、昭和63年にSL阿蘇ボーイとして復活をいたしました。その後、老朽化をいたし

まして、平成5年の8月に二度目の引退をしたところでございます。

SLのファンというのは全国的にたくさんおりまして、大変な人がまいて、そういう人気があるならば、蒸気機関車を再度造ってしたらどうかというようなご意見もあったようですけれども、まあ惜しむ声は多いにしても、平常の乗客数がもう増えないと。しかも老朽化をしたということで引退を、二度目の引退をして、今後、阿蘇ボーイについては、ディーゼル機関車がこれまでのウエスタン調の客車を引っ張るディーゼル阿蘇ボーイとなるというふうに報じられております。その阿蘇ボーイも今何か修理をしているようでございますけれども、以前、人吉の市議会の議員さんが豊後森の機関庫に視察におみえになったときに、この阿蘇ボーイの修理、車軸を替えなきゃいけない。大体1本が2億円ぐらいするそうです。修理に4億円かかるというような、4億円以上でしょうけれども、かかるというふうに伺っております。

仮に、この久大線に蒸気機関車を誘致をするということになりますと、現存する蒸気機関車があるかどうか、そこは私もまだ聞いておりませんが、当然JR九州に要請をすることになるかと思いますが、実際に走行させるとなりますと、大分から久留米まで走らせるのか、あるいは日田まで走るのか、あるいは定期的なのか臨時的なのかで、ダイヤ等の改正もございましょうし、SLは非常に重量が重いわけで、これは豊後森駅に聞いたところによりますと、走行区間の軌道、いわゆる線路ですね、これの調査も必要であると。石炭、それから水を必要としますので、そういう施設ですね、現在、豊後森駅にもございませぬ、大量の水も必要としますので、石炭の供給あるいは水の供給のそういう施設、これをどこに造るか、大分に造るのか豊後森に造るのか、由布に造るのか、湯布院に造る、あるいは久留米に造るのか、あるいはUターンをさせるそういう転車台、現在はもう殆どなくなってるか、あるいは老朽化をしているということで、そういう大変クリアしなければならない問題が山積をしておるところでございます。

SLを走らせるということになると、確かに乗客が増える可能性はあるわけですが、現在のJRの利用者が減少してる中で、このJRが蒸気機関車の導入について積極的に踏み切れるかどうか、これはやってみなければわかりませんが、また、ある意味ではその関係する市町村に何らかのこの負担を求めてくるのかどうか、これはまだわかりません。全くわからない状態ですが、そういうことが考えられるわけでございます。

夢ある話をしたいんですが、現実的なことを考えると、現在、今のところ、この関係をする市町村に玖珠町がこの促進協議会の設立といいますか、そういうことについては現在のところでは考えていないというところでございます。

以上です。

○議長（片山博雅君） 5番佐藤左俊君。

○5番（佐藤左俊君） 今、観光課長の方から懇切丁寧な詳しいご説明もございました。確かにですね、お金がかかって、そんなものをここに入れたら大変なことができるし、とてもそういう財政状況の中でそげんことはできないよと、どこの町村もですね、恐らく全国、いろんな発想が、どうしたら

町が元気になるだろうか、どうしたらやっぱり多くの人たちが来てもらって、この森駅中心として旧森町やいろんな観光地が多くのお客さんみえるだろう、初めから楽にそういうことは私はできないと思っておりますし、ここはですね、ひとつ、単なる大吊り橋であれだけのお客をよぶのというのは違うんですね。私が先ほど言いましたように、多くの歴史的な文化財というものがここにあるわけですね。よその他町村にはありません。恐らく全国の中ではですね、調べていただければわかるんですが、これだけの文化財が集中してるところはまずないんですよ。ここをもうちょっとですね、お互いにわかり合わないと、こういうものは絶対に難しいと思います。

なぜあの機関庫を玖珠町が買ったのか、JRからあれをなぜ買ったのか。回りが言うから買ったんじゃないんでしょう。何かの形でやっぱり生かして、何のために買ったかわからないと私は思っております。そういう意味ではですね、あの歴史的な、今現在は近代化遺産といいますが、これをひとつの登録文化財的な、また、そういう意味で、それに魂を入れていってこそ、これから先のまちづくりもできるんじゃないですかね。町はいっぱい土地を買ってます。しかしですね、それを生かしきってないですよ。だから、どうしても何かをすればお金がかかったり、いろんな諸条件が入って、一生懸命やろうとしておる方々がおる中で、どうしても町なりが一步下がっていく、そんなお金はありませんよと。町長、ここ辺のところでですね、私は、やってみてどうしても無理だということになれば別のことも考えなきゃならないのですが、ただ、あの機関庫周辺、あれ見たらわかりますが、昔のようにですね、もっともっと鉄道も多くのお客さんが乗り降りできるようですね、するためには多少ひとつ骨折っていただかないと、このままほっとけばやっぱり何もなりませんし、もう私はそういう意味でですね、お願いをしておるわけでありまして。

特に空き地もあそこにはあります。前回、私も一般質問の中で質問をいたしまして、あれは戦争の弾痕というんですか、あそこは3人の方が亡くなっているんですよ。完全な戦争の遺産としても唯一残ってるのがあのものです。ですから、そういう人たちとも一緒になってご相談を申し上げて、それは民間の皆さんの力を借ります。それから、町ができるものはやはり町としてやっぱりやっていただかないと、これは何ぼ議会でいろんなことを言い、また、いろんな意見をですね出して、いや、それはもう難しいですからできませんということになれば、この町は益々寂しくなる、元気が出てこないだろうというふうに思っております。そういう意味で、町長にですね、今、課長の方からはそういう丁寧なご答弁ありましたが、ひとつ町長もですね、観光に力入れたいという町長の公約もあったわけですね。私は歴史的な遺産があるこの、これを生かしたらもっともっとその観光が生きるんじゃないか、ただ滝とかですね、自然ということだけではなかなか難しい部分もある。多くのヨーロッパ旅行が今大変、今ではありませんが、ずっとヨーロッパに皆さん魅力を感じて旅行が日本から相当行きますが、あの古い建物、600年以前のいわゆる古代の遺産というものをめがけて行きよるじゃないですか。だから、ある意味ではこの古いいろんな文化財、そういうのを日本の中でも玖珠町が打って出ても、私は多少出費が嵩むと思いますが、ただ、国もやる気のある町には特別な補助事業、補助制度があるわけですね。ですから、今の現状の予算では難しいかも知れませんが、やはりこういった

日本にないこういう文化財的な都市づくりをしようということがですね、国を動かすこともできるんじゃないかと私は思いますし、その辺について町長のご見解をいただきたいと思います。

○議長（片山博雅君） 後藤町長。

○町長（後藤威彦君） 私の観光に対しての考え方は、佐藤議員のおっしゃられたとおり、これはひとつの玖珠町を活性化する手段として、どうしてもやらなければいけない、そういうふうに思っております。

前段の今お話のあった蒸気機関車の導入については、これは私も少し関係をしてきておりましたので、少しお話しをさせていただきますが、10年前に、ここにいわば蒸気機関車を通したいという思いで、そういう運動をちょっと私なりにしたことがあります。それは、私が交通対策局という形の中で、JRと大変深い関係にあったところで、その運行の一番のトップで、大分でトップというか、その運行の関係ではトップの方で、古屋さんという方と大変親交深かったので、その方に話をしまして、どうにかならないかということの中で、その話をした経緯があります。そのときは、まず採算に完全に乗らない。それはもう運行でいろいろなシミュレーションをしていただきました。これはもう採算に乗らない。まず、その前に、トロッコ列車をやったらどうですかということで、当時トロッコ列車を秋のもみじとかの時期にやりました。当時金で800万ぐらい県の方から出した経緯があります。それはその日田市、天瀬町、まだその当時はですね、それから玖珠、九重というような形の中で、負担金を少し各市町村からいただいたんじゃないかと思いますが、やりました。残念ながらその一番いい時期であっても、まあ乗ってる人はこちらの招待客が大半で、それはもう宣伝も相当やりましたが、残念ながらそれも結局800万という金のトロッコをつくったお金も、もうJRに寄付したような形になって、ずっと動かすはずであったのができなかったということがありました。

だから、なかなかやって、この運行しだして赤字というのは大変大きなものになると思っております。だからこれについてはもうちょっと慎重に考えないと難しいかなと、JRを使う、JRじゃない、蒸気機関車を使うのは。だからまだ蒸気機関車がちゃんとしておれば、童話祭の日に昔は動かしたこともありました。そういうことはやった経験があるわけですが、今、課長の方からも話がありましたように、いわば鉄橋、それから枕木の強度の問題とかそういう問題の見直しも、もしそれを本当にやるということになると、そういうことまで扱わなければならない、そういうこともあるようでありますので、大変これについてはもう私は難しいと思っております。

それから、先ほどの観光の問題ですが、まあ私は、一応玖珠は今、70万の観光客がみえておるわけですが、周りはすべて200万から300万、この玖珠盆地以外は200万から300万の方がみえておるわけでありまして。これをいかにこの玖珠町の中に下ろしてくるか、いわば来てもらうか。それは佐藤議員さんのおっしゃられるように、やっぱり文化財、これも売りであろうと思っています。私はこの木牟田、いわばカウベル、木牟田、中塚、大御神社、それから天祖神社と、いわばそういう地域に文化、それから歴史、お祭り、そういう文化財、そういうものをいわば一つひとつを宣伝をする、グレードを上げる、そういうことでリンクした形の中で亀都起神社とかそれから万年神社、それから瀧神社と、

そういうものを全てをリンクさせた形のいわば観光客誘致は考えたいと思ってます。これは花と水と癒しというようなコンセプトで売りをしたいなと思っております。

というのは、1つの地域にいわばその地区が花木千本植えれば、非常に黙っておいてもマスコミは扱ってもらえる。だから角牟礼一帯の三島神社一帯は、昔から「三島の桜」といっておりましたから、私は、当時、桜をだいぶあちこちに植えて回りましたが、角牟礼城のいわば指定を受けてる以外のところには、そういうものを植えていったらどうか。これはまあ勿論地域の皆さん方とお話をしなければなりません、そういう売り込みをやりたいと思っております。だから花と水と癒し。その癒しが、文化であり、歴史であり、そこのお祭りであり文化財である、そういうことを考えております。商工観光課の方にも、そういう形の中で中心的なまちづくり、387の縦のライン、横のラインの210号線、クロス久大線、そのクロスしたいわば周りに周遊の道路を考えていきたいというふうな形の中できっとそういう形をすることがこれからお隣りに来ている吊り橋の300万とか200万とかいって人を1割でも2割でもここに下ろす。とにかく100万人はもう、今まで70万、70万でずっと言われてきたこの珍珠町ですから、せめてまず100万を超させる運動の展開はそういうことでやりたいなと思ってるところであります。

答えが少しちょっと違うかもしれませんが、観光に対しての考え方はそういうことで考えていきなと思っております。よろしく願いいたします。

○議長（片山博雅君） 5番佐藤左俊君。

○5番（佐藤左俊君） 町長の観光の考え方はわかりましたが、どうも我々仕事をしておった関係からすると、ちょっとまだまだですね、先ほど私が言いましたように、文化財、本当に文化財というものが珍珠町はたくさんあるわけで、こども、もう少し教育委員会の皆さんとも十分相談されるとですね、非常に先ほど言いましたように学者の皆さんも言われますが、珍しいと言われるんですよね。ですからもっともこの辺のどこ、だからその中で、若干先ほどお話し申し上げましたが、それを管理している多くの一般の方がおりますが、大変行政改革の中で、殆どの方がもう無報酬的な形でいきます。この辺のところも是非教育委員会の関係職員の方と十分話していただきたいなというふうに思っております。

それでは、周辺整備計画についてですね、先ほどSLの問題については非常にまだ検討する余地もある、いろんな諸条件があるだろうと、難しいという前提の上で、是非ですね、町長、今私は簡単でいいと言ってるんじゃないんで、できるだけですね、いろんな機会を捉えて、十分その辺のJRなりいろんなところとご相談できたらいいな。私が言ってるのはちょっと突拍子もない話かと思えますけども、ひとつその一つのきっかけになっていただければというふうに思います。

それから、先ほどもちょっと話の中で言いましたが、2番目に入りたいと思いますが、やはりあの機関庫をどうするか、これから。大変地震対策含めてこのままの状態では非常に厳しいだろうと、お金も相当あれを保存すればかかる。それかといって、あの危険な建物ですから、どうして保護していくか、壊せばお金も相当かかりますが、また、戦争の遺跡でもありますから、いい知恵を出してです

ね、先ほど私が言いましたように、いろんな、国にもそういった新しい事業の予算的な部分も私なりに調べた分がございますが、是非その辺のところを生かしていただいでですね、先ほど言いましたように、歴史民俗資料館がないんですよ、玖珠町には。全国どこの町に行ってもあります。どうしてこんなに文化財に関して資料館がない、今でも現状、なんか殆ど発掘調査した品物は全部モラロジーとか、県とかありますが、全然ないんですよ。この辺のところをするためにも、先ほど言いました鉄道資料館、平和的な資料館、もう玖珠町にはいろんな資料がいっぱいあります。いろんな文化財的な部分がありますが、その展示場所も含めて、是非ですね、資料館の検討もあそこにしていただければもっともって生きるんじゃないかというふうに思っておりますから、是非お願いをしたいと思っておりますが、この歴史民俗資料館のことにつきましてご答弁いただきたいと思います。

○議長（片山博雅君） 小川社会教育課長。

○社会教育課長兼中央公民館長（小川敬文君） 歴史民俗資料館についてお答えいたします。

歴史民俗資料館は、玖珠町の文化財や町史編纂関係資料、古文書、民俗資料などを展示し、町民が玖珠の歴史を学び、郷土を育む場として必要な施設です。また、玖珠町は埋蔵文化財の出土では県下でもトップクラスの質と量があり、保存体制の確立を図るためにも、資料館の建設をしていかなければなりません。今後とも、政策事業3ヵ年事業の積み上げを行い、対処してまいりたいと思います。

○議長（片山博雅君） 佐藤議員、発言する場合は議長の許可が要りますので、ちゃんとするように。5番佐藤左俊君。

○5番（佐藤左俊君） ありがとうございます。

特にですね、非常に社会教育課長も非常に遠慮がちに、非常にかなり財政部分で相当やられてると思いますが、やっぱりこの辺のところはですね、やっぱりもうちょっと視点を変えていただかないと私はいけないというふうに思っておりますから、是非お願いを申し上げたい。

それから3番目に入りたいと思っておりますが、先ほどからお話しを私してますように、今、日本一小さな城下町ということで、この森町の取り扱いがいろいろされております。日本一小さいというのは、これまた珍しい、いい話じゃないかと思えますし、そこにいろんな歴史的な文化財が眠っておりますし、今、街並み整備も少しずつできております。その中で、それぞれ観光と教育委員会の関係が一緒に入り乱れて質問されておりますが、細かくは部分は難しいと思っておりますが、ただ、先ほどから議論になっておりますが、観光旅行社の方がですね、森町の方に来たいというけど、駐車場とお土産品店が売り場がないということでも言われました。今度道の駅ができましたので、多少ですね、その辺のところ緩和できたと思うんですが、旧森町の方にやっぱり食事ができたり、お土産屋ができたりすると、また駐車場等が整備ができればですね、これもまた、多くのお客さん呼び込むためにも必要かなと。これをやっぱり民間の皆さんでやるのもあれでしょうけど、町なりがそれなりの支援ができればですね、いいんじゃないかなと。私もその関係でいろいろ言われました。カウベルに来て今度ちょっと行く観光地には駐車場がありますとか、食事するところがありますとかいろいろありました。だからやっぱりそこら辺の受け皿をやっぱりつくっていかないと難しいかなと思っております。

それで、ここに5点ほどございます。まあそれぞれ観光と教育委員会の管轄になると思いますので、その状況につきましてご報告をいただきたいと思います。

最初に、角牟礼城の整備等が今どういうふうにされておるのか、どういう状況なのかちょっとお願いしたいと思います。

○議長（片山博雅君） 小川社会教育課長。

○社会教育課長兼中央公民館長（小川敬文君） 角牟礼城の整備の状況についてということであります。

角牟礼が国史跡に指定されたのは平成17年の3月2日でございます。当時、議員さんが担当課長されていたかと思えます。その折に、保存整備の年次計画というのを立てられたかと思えますが、平成31年度に至る長いスパンでの年次計画で整備の方向が示されております。一応その整備計画に一応沿って、保存整備検討委員会を中心に議論を重ねながら、平成18年度に三の丸の南東側石垣外側の塚、それから平成19年度には三の丸南東側石垣内側の塚、これは炭櫓の復旧工事に向けての事前調査という意味合いも含めて行っております。本年度は本丸北側石垣の塚を予定をしておるところであります。石垣等復元工事の基礎資料の収集が終われば、工事に向けて県、国と協議をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（片山博雅君） 5番佐藤左俊君。

○5番（佐藤左俊君） なかなか慣れないのですみません。

ありがとうございます。大変課長も苦勞されると思いますが、なかなかこれはお金もかかることでございますから、この議会を通じて、町長の方もだいぶ考え方変わったと思えますから、ひとつ前向きに一生懸命取り組みをいただきたいというふうに思います。

それから、項目変わりますが、いろんな部分についてはちょっと割愛して、観光課長、駐車場とかです、その辺のお土産品店とか、そこ辺の関係、もしわかりましたらお願いを申し上げたいと思います。

○議長（片山博雅君） 坪井商工観光課長。

○商工観光課長（坪井万里君） お答えをいたします。

この森地区の本町通り並びに寺町通りの整備につきましては、議員もご承知のとおり国土交通省の補助事業でございます「森地区街並み環境整備事業」これ平成15年から24年の10年間事業のようでございます。この実施によりまして、食事やお土産店を開設できる環境が、以前から比べると整ってきたのではないかなというふうに思っております。

したがって、今後、玖珠町の商工会あるいは観光協会と連携をし、この新しいお土産品や特産物の開発も実施しながら、ご承知のように建設が進められております玖珠インター前ふれあい広場との連携も図りながら、この事業者やまたその経営をされております経営者の革新も進めながら、既存あるいは新規の事業者が出店ができるような環境あるいは指導をしてまいりたいというふうに思いますし、この出店が進みまして観光客が増加するにつれて、やっぱり駐車場の確保というのは必要になっ

てくるのではないかと、そういう事態になれば、町としても何らかのやっぱり支援策をしていく必要があろうというふうに考えております。

○議長（片山博雅君） 5番佐藤左俊君。

○5番（佐藤左俊君） ありがとうございます。

あと3つほど、森町の武家屋敷の問題、それから三島公園周辺の活用、それからボランティアガイドということで一応項目としては上げておりますが、特に社会教育課長、この辺について特に問題点いろいろありましたら、あったらひとつお願いしたいと思います。

○議長（片山博雅君） 小川社会教育課長。

○社会教育課長兼中央公民館長（小川敬文君） 森町の武家屋敷の活用についてであります。

平成19年8月7日から20年3月31日まで、森城下町伝統的街並み保存に伴う学術調査を九州大学大学院の宮本教授ほかで行いました。森城下町の残された伝統的街並みの都市史調査及び伝統的建造物の建築史調査を行い、城下町に残された武家建築及び町屋建築の実測及び履歴調査を通した類型別建築様式の特徴を把握したところであります。

調査結果については、大変大きな評価をいただいております。武家屋敷から陣屋、それから町屋に至る部分が相当程度まあ残されておるということと、逆に、また、景観として壊されてきておる部分等の指摘もなされております。一応調査としては終わっておりますけれども、例えば武家屋敷の保存等で地元に入っていくということになれば、今後このまとめをそれなりの方向付けをしながらもっていかなければいけませんし、今回の調査が全てではございませんので、今度の調査をまた補完的に調査をしながら、出発点的に調査が終わりましたので、今後とも検討していきたいというふうに考えております。

それから、三島公園周辺の文化財の活用でございますけれども、平成8年3月29日に旧久留島氏庭園附清水御門前庭が県の指定の名所になっております。本年議員さんも申されましたけれども、10月18・19に文化財庭園の保存継承をとということをテーマに、全国レベルで第5回の文化財庭園のフォーラムが玖珠町内で開催されました。で、京都に事務局を置く文化財庭園保存技術者協議会の主催、共催として玖珠町、玖珠町教育委員会が行ったわけでありましたが、旧久留島氏庭園、それからわらべの館を中心に開催をされました。

国指定の庭園管理を行っている庭師25名による旧久留島氏庭園の維持管理作業の様子を解説を交えながら実地見学を、また、文化財庭園について各方面に係わっている先生方による庭園保存のための諸課題についてシンポジウムやそれぞれの立場から意見交換を行うパネルディスカッションをすることで、玖珠町民にとって文化財庭園について考えるよい機会になったのではないかなというふうに考えております。実際に関東以西の文化財庭園級の維持管理を行っている庭師による手際よい作業で、旧久留島氏庭園は更に立体感を増しまして、築山もしっかりとした稜線を現し、見事な史跡庭園が蘇ったと思っております。郡内からも造園業者3社がご加勢をいただきまして、文化財級の庭園管理の技を体現していただくよい機会になったというふうに考えております。

今後とも文化財所有者と協議をしながら、文化財の保存、それから維持、管理、それから活用、そういうものを協議しながら進めていきたいというふうに考えております。

それから、ボランティアガイドの拡充についてですけども、ふるさとボランティアガイドは、平成7年度に当時の森公民館がお世話をして発足しております。以降、童話の里ふるさとボランティアの会として会則を設け、独自に活動を展開しているようであります。社会教育課としては、従来どおり、必要があれば文化財情報を提供はしていきたいというふうに考えております。

ガイドの拡充の必要があれば、関係課と協議をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（片山博雅君） 5番佐藤左俊君。

○5番（佐藤左俊君） ありがとうございます。

大変だと思いますが、これから地道な活動だと思いますが、文化財という非常にですね、難しい仕事しておりますが、教育委員会、特に日の当たるような観光を生かしたまちづくりに生かしていけたらなというふうに思っております。

最後であります。特に農林課の方で、先ほど私の方からも申し上げましたが、今グリーンツーリズムの関係で一生懸命活動されておる協議会ありますが、この点についての課題なり今後の方向につきまして、農林課長あれば報告をお願いします。

○議長（片山博雅君） 麻生農林課長。

○農林課長兼農業委員会事務局長（麻生長三郎君） グリーンツーリズムの関係につきましては、昨年、また今年の9月の議会におきまして高田議員さんの方からご質問がございましたので、現状等を述べまして、重なるかと思えます、また、時間も迫っておりますので、端的に答えていきたいというふうに思っております。

グリーンツーリズムの運営につきましては、議員さんご存知のとおり、協議会から独立して研究会という部分で、今、研究会が主体となって実行しております。それに補足的に事務方の方を農林課が受け持っているというような現状でございます。

グリーンツーリズムの部会におきましては3部会、議員さんご存知のとおり、体験部会、直販部会、農泊部会という3つの部会がございまして、現在47名の会員さんがおられます。その中で、宿泊の部会では27名の部会員がおりまして、許可を取っている部分が21名ということで、年次的に会員を増やしていきたいというふうに考えております。

次に、現状の課題でございますけど、今までグリーンツーリズムで動いてきて感じてきているのが、年間恒常的に運動ができていないということで、各部会ともそれぞれのある一定の期間、農泊部会に関しましては田植え時期、それから刈り入れの時期ということで、食育を主体としておりますので、どうしても短期間、期間が限られた宿泊状況になっている。直販部会に関しまして、玖珠町においては冬場の野菜が取れないということで、夏場だけの販売というような形が多くなっております。体験部会におきましても、年間通じての体系がとれないと。総じて3つの部会とも年間を通じて取れて

いないというのが現状でございます。これをどうするかというのが今後の課題になってくるんじゃないかというふうに考えております。

今後の推進方針なんですが、先ほど言いましたように、年間を通じてできるようにしたいと。来年の4月に開設されますインター前の道の駅、これを大いに利用して、販売の部分についても利用していきたいというふうに考えております。宿泊部会におきましては、先ほど議員さん申されましたように、研究会の研修等を、玖珠町の歴史などを勉強していきながら、玖珠の宣伝に努めて取り入れて、進めていきたいというふうに考えております。

課題として、宿泊部会になりますが、会員の募集、それから受け入れ農家の研修、法人格の取得というのが今後の課題になっています。順次農林課として進め、各課とも連携をとっていきたいというふうに考えておりますので、よろしく申し上げます。

○5 番（佐藤左俊君） 以上で終わりたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（片山博雅君） 5番佐藤左俊議員の質問を終わります。

これで一般質問を終わります。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

なお、明日11日から15日までは、各常任委員会並びに議案考察のため、休会といたしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（片山博雅君） 異議なしと認めます。

よって、明日11日から15日までは、各常任委員会及び議案考察のため、休会とすることに決定いたしました。

本日はこれにて散会します。

ご協力ありがとうございました。

午前11時53分 散会

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

平成20年12月10日

玖珠町議会議長

署 名 議 員

署 名 議 員